

国際交流センター

NEWSLETTER

Mar. 2017 Vol.46

国際交流センター長 退任の挨拶

国際交流センター長である横山茂雄が、この3月をもって任期満了の為、退任致します。退任にあたり、この場を借り、皆さまへ挨拶をさせていただきます。

横山 茂雄 国際交流センター長 教授

平成27年度及び28年度の国際交流センター長を務めさせていただきましたが、国際交流事業というものが日々の地道な作業の積み重ねであることを痛感させられた2年間でした。また、交流というからには双方向であるのは当然ですが、この単純な事実のもつ重みを改めて思い知ることにもなりました。

在任中に発進した主要事業のひとつとしては、サマープログラム「MAHOROBA」があります。これは夏季の10日間、海外交流協定大学の学生たちを本学に招聘し、奈良の魅力、日本の文化、歴史について実地に触れてもらい、かつ、本学の学生や地域の方々と交流していただくというのが狙いです。平成27年度は英語を使用したプログラムのみでおこないましたが、平成28年度からは日本語を使用するプログラム「まほろば」も時期をずらせて開催し、さらに、週末のホームステイも組み込みました。

平成27年度からは、大学院レベルでの交流としてベトナムのハノイ大学との修士ダブルディグリー・プログラムも開始されました。アジア圏の大学とのダブルディグリー・プログラムは本学としては初めての事業でしたので、試行錯誤を重ねましたが、現在までのところ順調に進捗しております。これらは主として外国からの留学生の受け入れに関わるものですが、欧米やアジア、オセアニアの交流協定大学などに本学の学生の皆さんを送り出す支援や、海外交流協定大学の数の拡大にも力を注いできたのはいうまでもありません。センター主催による中国、ニュージーランドなどにおける語学研修への参加状況、あるいは、平成26年度から始まった官民協働



横山先生

Inside This Issue



国際交流センター長退任の挨拶
教授 横山 茂雄



交換留学生(受入れ)からの
メッセージ



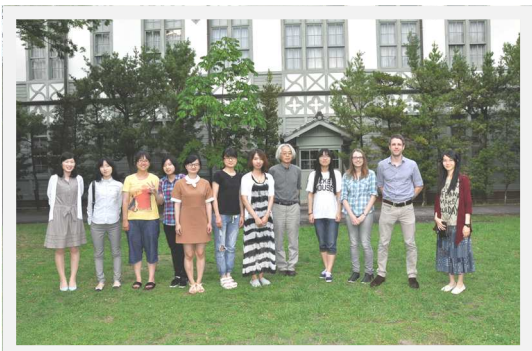
大学院生の
国際学会での発表



帰国留学生懇親会を開催



センター及び国際課の活動
&センター来訪者



帰国交換留学生と

海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」への本学からの応募状況などを見ても、皆さんの海外で学びたいという意欲はとても強いので、この傾向がますます盛んになるよう願っております。

なお、以上に記してきたことはすべて国際交流センター及び国際課のスタッフ、その他の本学関係者の方々のご尽力によって達成された成果で、当方の寄与するところがあまりに少ない点を心よりお詫びすると共に、この場を借りて深く感謝させていただきます。

交換留学生(受入れ)からのメッセージ

2016年度、奈良女子大学では、18名の交換留学生を海外協定校から受入れました。この3月で帰国する2名の交換留学生に奈良女子大学での思い出を語って頂きました。

奈良女子大学で過ごした日々

NI, MIN-HUA 東海大学(台湾)

私は交換留学生なので、初めて奈良女子大学に来た時、びっくりした。自分の大学と比べて、確かに小さいと言える。しかし、授業を受けながら、自分もだんだん奈良女子大学のあちこちを深く理解した。

まず、奈良女子大学自体歴史ある物の宝庫だと言われる。正門と守衛室が日本の重要文化財として指定されている。まっすぐに行ったら、旧本館である記念館が見える。中には、国産最古の「百年ピアノ」が設置されている。残念なのは、私は見たことがない。しかし、それだけでも、自分がこんな学校へ留学しに来られるのはとても自慢だ。

そして、学生として、一番よく行ったところと言ったら、どこだろう？絶対食堂だ。奈良女子大学の食堂は学生たちの経済状況を考えて、食堂の食べ物がすべて驚くほど安い。最初は台湾、物価が低い国から来たので、気づかなかったが、日本で一時期生活した後、そう気づいた。そして、食堂で売っている食べ物の種類が多いと思う。ラーメンもあるし、定食もあるし、どんぶりもあるし、自分が好きを選んでいい。しかも、12時半ぐらいにまたバイキング料理を提供してくれる。毎日、ご飯の時間を楽しみにしていた。今日は何を食べたほうがいいのか、考え続けていた。食堂は、私の思い出を多く含んでいる。

奈良女子大学の雰囲気

HANA DE PAUW

ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)

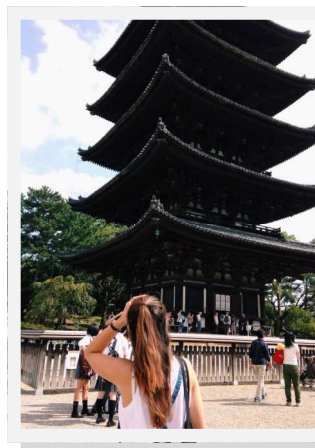
奈良女子大学の学生は、とてもまじめで、優しく、雰囲気がとても良かった。大学と言うよりも、大きな家族の様な感じだった。奈良女の女性はまだ勉強しているだけではなく、目的を目指して勉強していると感じた。奈良女のキャンパスは緑が多く、毎日公園で散歩していたようだった。寮は大学と奈良公園に近くて、便利だったが、初めて寮に鹿が来たときはびっくりした。そして、授業やゼミはとても勉強になったし、国際課が開催してくださったイベントも本当に楽しかった。奈良女子大学で6ヶ月勉強出来たことはとても良い経験だった。



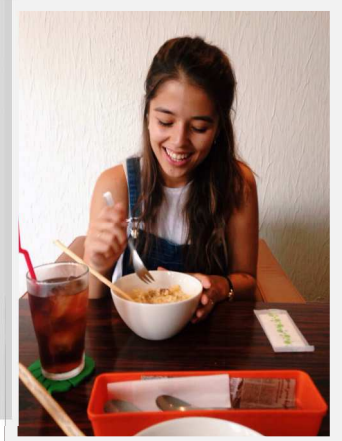
ホームパーティ(右前：NIさん)

奈良女子大学には、交換留学生のために、チューターという制度があった。毎週自分はチューターさんと交流した。日本語の練習と日本の環境について不適應なところがあれば、全部チューターさんに聞いていい。それ以外、もっと多くは、文化の違いをおしゃべりをした。例えば、日本人は敬語を使うということをどう思うか。自分の母語で敬語をあまり使わないので、丁寧語と普通体を区別しなければならない文化は、とても好奇だ。あるいは、日本の成人式をどうやって過ごしたのかを聞いた。もちろん、自分の国もどうするのかを教える。こんな形で、一年間にたくさん日本のことを知った。そして、チューターさんと友達になれたのが本当に嬉しかった。

最後、奈良女子大学では、勉強の部分では、先生たちが留学生に優しいと思う。台湾はある授業で人数が多すぎなら、受けられないことがある。しかし、留学生として、こんな制限を聞いたことがない。受けたくないしかない、受けられないことがない。先生たちは私が留学生ということを知ったら、私の日本語に、あまりプレッシャーをかけない。敬語が下手でも、優しくしてくれた。これらのことがすべて私の人生の大切な思い出だ。自分が奈良女子大学に留学しに来れたのは、本当にラッキーで、幸せなことだったと思う。



奈良公園を散策



大学院生の国際学会での発表

国際交流センターでは、大学院生の国際的な研究活動の促進を図る為、海外で開催される国際学会で発表する際に必要となる渡航費を支給する支援活動を行っています。平成28年度は、2名の大学院生が選ばれ国際学会で発表しました。

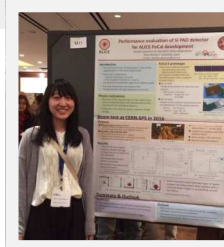
Quark Matter 2017

坂本 朋子

大学院人間文化研究科博士前期課程 物理科学専攻 1回生

2017年2月5日から11日までの1週間、アメリカのシカゴにて開催されたQuark Matter 2017に参加しました。Quark Matter 2017は1年半に1度開催される、原子核物理学の分野でもっとも重要な国際学会です。今回26度目の開催で、参加国は約40カ国、参加者総数は約800名と、大規模な学会でした。その中で私は「Performance evaluation of Si PAD detector for ALICE-FoCal development」という題目でポスター発表を行いました。本研究の目的は、欧州原子核機構（CERN）で行われている原子核衝突実験（ALICE実験）に新たに導入予定の電磁力ロリメータ検出器（FoCal-E）の研究開発です。今年の9月にCERNで行ったFoCal-Eの試作機を用いたテスト実験の解析結果を報告し、今後の開発・研究計画について議論しました。

ポスター発表では、研究内容や経験が異なる国内外の方々と議論することができました。着眼点が様々なため予測していた内容以外の質問が多く、受け答えにとっても苦労しました。説明が難しかった部分についてはより深く学ばなければいけないと感じ、さらに英語



ポスター発表前

で説明をしなければならないため語学力の必要性を強く感じました。口頭発表では、普段関わる機会のない他の実験グループの方々の研究を知ることができました。原子核衝突実験の領域

において、どのような研究をしているのか、最新のトピックは何なのか、これからどのようなところを目指していくのかということに触れることができました。また、生活面ではルームメイトがインド出身だったこともあり、英語が必要不可欠でした。拙い英語でも会話を続けることでだんだんとコミュニケーションが取れるようになり、躊躇せず英語を使うことの大切さを実感しました。研究を発表する場ではありましたが、教えていただく事や学ぶ事がたくさんありました。今までとは違った視点で自分の研究をみることができ、取り組み方を見直すきっかけにもなりました。修士論文執筆に向けてあと1年で何をゴールにするのかしっかりと計画を立て、今回の貴重な経験を活かしてこれからも研究活動に励みたいと思います。

最後になりましたが、学会参加にあたり手厚い支援をしていただいた奈良女子大学各機関の皆様、指導教員の下村真弥先生、筑波大の共同実験者の皆様へ、心より御礼申し上げます。

3rd International Conference of the American Pragmatics

盛田 有貴

大学院人間文化研究科博士後期課程 比較文化学専攻 3回生

2016年11月3日から6日にかけてIndiana University Bloomington（インディアナ大学ブルーントン校）で開催された3rd International Conference of the American Pragmatics Association（AMPRA, 第3回アメリカ語用論学会）に参加しました。アメリカ語用論学会は、国際語用論学会（IPrA）と毎年交互に隔年開催される学会で、言語学の中でも言語と言語を用いる使用者や文脈との関係を専門的に扱う語用論という分野に関心を持つ研究者が一堂に会する国際学会です。

今回の学会では、“Attribution Features in Verbal Irony and Other Echoic Language”というタイトルで口頭発表をしました。先行研究において明らかにされているアイロニー発話の帰属性（発話時点の話者以外に発話の内容の源があるという特徴）に着目し、その下位カテゴリーとして、制限的エコー的使用と非制限的エコー的使用という二分を提案しました。その上で、この二分によりアイロニーにはエコー疑問文、メタ言語否定とは異なる認知的特徴が見られることを主張しました。



学会の様子

今回参加したアメリカ語用論学会では、海外の大学の大学院生、先生方と多く交流を持つことができました。渡航先での使用言語が英語で語学の面で困ることがなかったため、意見交換や交流も非常に有意義なものとなりました。また、自分と同世代の大学院生との交流は、非常に貴重な機会でもありました。今回の国際学会での経験を通し、国内はもとより、海外にも研究活動の幅を積極的に広げていきたいと感じました。その意味で、大学院生時代に国際学会に参加できたことは非常に貴重な機会であり、支援いただいた奈良女子大学国際交流センターに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

海外協定校への教員派遣事業

国際交流センターでは、教育交流の促進を目的に海外協定大学に教員、学生を派遣しています。2016年度は、南京大学(中国)、ハノイ大学(ベトナム)、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学(ベトナム)に派遣しました。中国へ同行した学生からの報告を抜粋して掲載します。

南京大学(中国)へ

大橋 京香

大学院人間文化研究科博士前期課程 物理科学専攻 1回生

私は昨年(2015年)の11月28日～12月1日の間、南京大学外国語学院日本語学部へ派遣され、武藤康弘先生の集中講義の補助、奈良女子大学の紹介を行ってきました。集中講義への参加学生のほとんどは大学院生でしたが、日本留学経験のある3回生も参加していました。そのため講義は全て日本語で行われていました。

今回の集中講義は日本の文化を紹介する内容でした。古代中国と深く関わるお寺やお祭などの伝統文化から現代の若者に人気のあるアニメ・マンガ・音楽などの現代文化まで幅広く紹介されており、学生は紹介する文化の一つ一つに興味を持って講義に参加していました。講義では色彩豊かな日本文化を紹介するために美しい画像や映像が使われていたので、学生たちは貴重な映像や興味のある映像を携帯で撮影したり録画したりして記録していました。また、明るい日本文化だけでなく、講義の最後には現在日本の社会問題である女性の貧困についての内容もありました。



武藤先生講義の様子

集中講義の2日目には理系大学院生として奈良女子大学の紹介をさせていただきました。専攻が全く違う私が講義をするにも関わらず、学生はみな興味を持って耳を傾けてくれました。輪講形式で授業が進められていくことや、研究室に一人一つ机があり毎日そこで研究していることは、中国の文系大学院生にとっては珍しいようでした。

そして最終日には南京大学の教養科目の一つである理論力学の講義に参加させていただきました。中国語はほとんど聞き取れないため講義内容を理解するのは計算式だけが頼りでしたが、異なる言語で同じ学問を学ぶということは大変興味深かったです。

帰国留学生懇談会を開催

去る2月9日(木)、国際交流センター主催で帰国予定の交換留学生5名を囲み、今岡学長、指導教員1名、チューター3名で帰国留学生懇談会が行われました。半年～1年の間、本学で学んだ留学生は、それぞれ奈良女子大学での思い出を語り合いました。勉学から日本での食事の話など、会は盛り上がりました。



懇談会の様子



今岡学長の挨拶

センター及び国際課の活動

- 2017/1/20 グローバル女性人材養成プログラム(NZ第6回)渡航説明会
- 2017/2/16 グローバル女性人材養成プログラム(NZ)最終渡航説明会
TOEFL-ITP受験、ニュージーランド勉強会
- 2017/2/18 グローバル女性人材養成プログラム(NZ)研修出発
- 2017/2/27～28 留学生実地見学旅行(十津川村)
- 2017/3/17 グローバル女性人材養成プログラム(NZ)研修帰国
- 2017/3/21 グローバル女性人材養成プログラム(NZ)TOEFL-ITP受験

センター来訪者

- 2017/2/16 Bolstad Francesco Aquila 氏
(奈良県立医科大学 臨床英語教室主任 教授)
- 2017/3/9 原 智佐 氏
(お茶の水女子大学グローバル協力センター・副センター長)

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.46 2017年3月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>